

不況で困っている時、なぜ区民に負担増

千代田区は1月末に平成14年度予算案を発表しました。その内容は、「新行革大綱」を受けて、区民のみなさんに負担増を求めるものとなっています。一般会計は、この不況の中でも506億20百万円、15.5% (67億79百万円増) の伸びを示す特異なものとなっています。

この予算案の大きな特徴は、使用料・手数料の大幅値上げ、学童クラブ・障害者宿泊訓練の有料化、敬老金の廃止など、この不況時区民に負担増を求める一方で、今の時期これだけの予算計上が必要か疑問のある市街地再開発事業に90億円、江戸開府400年記念事業に1億75百万円も計上していることです。不況の最中、区民が困っている時こそ、区財政の使い方を変えて、区民に負担をかけるのではなく、区民を支援していくことこそ求められているのではないのでしょうか。区財政について、みなさんと一緒に考えていきますので、ご意見をお寄せください。



区には480億円の貯金があるのになぜ使わない

平成十四年度予算案による区民への影響

★学童クラブ、講座・講習会などを有料化、使用料・手数料

平均1.5倍。区民に大幅負担増・合計で1億2497万円

★中学校給食・保育園給食の業者委託、区職員と臨時職員的大幅減、敬老金段階的廃止

右のように、平成十四年度予算案では、学童クラブ、講座・講習会などの有料化、使用料・手数料の平均1.5倍の値上げ、学校・保育園給食の業者委託化、区職員と臨時職員的大幅削減、敬老金の段階的廃止など、区民に負担増を求めるものになっています。この不況時になぜ、区民に負担増を求めるのでしょうか。区民の生活を守ることが先決ではないのでしょうか。区には、年間予算に匹敵する約四十八億円の積立金(貯金)があります。これを有効に使えば、区民負担をせずにすむのではないのでしょうか。

	13年度当初予算	14年度予算案
土木費	50億5百万円	47億71百万円
市街地再開発費	49億32百万円	90億35百万円

★市街地再開発事業が昨年の49億円から90億円に(1.8倍)

神保町、西神田、富士見、有楽町の市街地再開発事業に、昨年の四九億三二百万円から一八倍の九〇億三四七八万円を投入するとしています。民間に住宅建設をしてもらうのがねらいですが、一戸一億円もする住宅に区民が住めるのでしょうか。また、この不況で区民が困っている時に、これだけのお金を投資する緊急性があるのか疑問です。

★区民に負担増をする一方で必要性に乏しい江戸開府400年

事業に1億75百万円、町名由来板に2億円

江戸開府四百年記念事業は、区民要望によるものではなく「突然」という感があり、この不況時に一億七五百万円も投入する必要性があるのか疑問です。町名の由来板(各町名の由来と周辺の古地図等を入れるという)の二億円も今必要なのか疑問です。区民に理解を得てから、また区民負担増をしなくてすむようにしてから実施すべきです。

★受益者負担の適正化という名の区民負担増

区は、受益者負担の適正化、原価との差を解消するとして、ほとんどの手数料や使用料の大幅値上げを行っています。来年度は据え置かれる保育料も、この次は値上げされる見込みです。原価との差を解消するとしていますが、採算を取るのが区政ではないはずで、区は、赤字財政ではありませんので、税金の使い方一つで値上げしなくてもすむのではないのでしょうか。



給食問題、保育園、児童館の人員問題

区民、職員と区が子どもの視点による話し合いの継続を

区議会開催中

千代田区議会が2月22日からはじまっています。この議会では平成14年度予算案が審議されています。この予算案の中で学校や保育園給食の委託問題及び陳情が審査されています。ぜひ、関心のある区民のみなさん、傍聴してみてくださいはいかがでしょうか。委員会日程は、区議会事務局でお知らせしています。

区は「区民のいのちと暮らしを守ることで」

私たちは「区民全体の奉仕者」として働いています
区民の人権を脅かす区の政策には異議を唱えます

区は、区民の安全、健康、福祉を守るのが責務であり、「区民のいのちと暮らしを守る」とりです。そこで私たち職員は、「区民全体の奉仕者」として働いています。区民一人ひとりの基本的人権を守り、区民のいのちと暮らしを擁護することが、区職員の担っている仕事、職務の中心です。だから、区の政策に対しても区民の人権や暮らしが脅かされることについては、異議を唱えるのです。

職員は自分の職を守るために業者委託に反対しているというが...

区長は「フラット区長室」で、私たち職員に対して「自分たちの職を守るために業者委託に反対している」と言っていますが、実はそうではありません。

給食問題は「子どものいのちや健康に関わる重要な問題である」こと、「安心・安全な給食を責任をもって作りたい」、さらに「区民のいのちと暮らしを守るのが区職員の責務である」ことから、あえて問題提起しているわけです。

給食は私たちに任せてください

区長は、「職員が労働時間の延長や新たな給食のやり方により労働条件がきつくなる」とには反対する」ので業者委託にするとも言っています。何か、職員が区の財政も考えずに条件整備を求めているように言われています。

しかし、私たちは、子どものために安心・安全な給食をつくるために責任をもって実施できるように条件を整備すべきと言っているのです。不十分な体制では何よりも子どもに影響がでることを心配しています。

区職員の大規模削減は子どもにも影響

区は、五年間で職員定数を三百人削減（職員総数の二二％）するとしていますが、これは、最近発表された目黒区の職員数五％削減、葛飾区の職員数十％削減（いずれも四年間）からみても千代田区の二二％削減がいかに大幅で無謀なものかわかります。これは区民サービスに影響することは必至です。特に、マ

ンパワーの必要な福祉・教育分野では、人手が不足し、「区民サービスの低下」は避けられません。来年度の人員配置では、新規事業にも関わらず「こども園」への不十分な配置、学童クラブは有料化するのに人員は削減するなど、子どもへの影響が心配されます。

「ちよだ給食まつり」に区民160人

2月17日(日)、午前11時から「第1回ちよだ給食まつり」が富士見小学校で行われました。天候に恵まれ、親子連れの方、職員が200人以上参加しました。給食の試食や子どもたちに対するアトラクションで楽しんでいただきました。また、「食の安全性を求めて」というテーマで日本消費者連盟の富山洋子さんに講演をいただき、約50の方が熱心に聞いていただきました。参加・ご協力いただいた方々ありがとうございました。引き続き、給食問題に取り組んでいきますので、よろしく願います。

